

平成 25 年度 第 3 回昭島市環境審議会
会議録（要旨）

〔開催日時〕 平成 26 年 2 月 12 日（水） 19：00～21：00

〔開催場所〕 昭島市役所 3 階庁議室

〔出席者〕

- 1 委員：椎名会長、嶽山副会長、臼井委員、岡部委員、金井委員、桐谷委員、丹野委員、長瀬委員、久富委員、將堂委員
- 2 事務局：村野環境部長、山口環境課長、指田係長、加藤主査、吉村係長、松永係長、秋山主任

〔議事要旨〕

- 1 開会
- 2 報告
 - （1）平成 25 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰の受賞について
 - （2）エコプロダクツ 2013 昭島市ブース展示・催し物について
 - （3）市制施行 60 周年記念第 6 回あきしま環境緑花フェスティバルの開催について
 - （4）新環境マネジメントシステムへの移行について
- 3 議題
 - （1）昭島市の水について
- 4 閉会

〔配布資料〕

- 資料 1 平成 25 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰の受賞について
資料 2 エコプロダクツ 2013 昭島市ブース展示・催し物について
資料 3 市制施行 60 周年記念第 6 回あきしま環境緑花フェスティバルの開催について
資料 4 新環境マネジメントシステムへの移行について
資料 5 昭島市の水について

〔発言要旨〕

- 2 報告
 - （1）平成 25 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰の受賞について
 - （2）エコプロダクツ 2013 昭島市ブース展示・催し物について
 - （3）市制施行 60 周年記念第 6 回あきしま環境緑花フェスティバルの開催について
 - （4）新環境マネジメントシステムへの移行について

臼井委員：新環境マネジメントシステムについて、市民、市内の事業者が参画したものとなっているが、具体的にはどのようなことをするのか。

事務局：新環境マネジメントシステムの運用状況を確認するための監査に市民、市内事業者、また他市職員に参加してもらう。また、この新環境マネジメントシステムに基づき作

成した家庭版環境マネジメントシステムをあきしま省エネファミリーに登録していただいている各世帯に配付し、省エネ活動を推進するためのものとして使用していただく予定であり、市内事業者には、昭島市環境配慮事業者ネットワークに加入している事業者で、まだ環境マネジメントシステムを導入していない事業者に本市の新環境マネジメントシステムを導入してもらえるよう周知していく。

桐谷委員：あきしま環境緑花フェスティバルを開催するとのことだが、周知の方法はどのように行うのか。せっかくすばらしいイベントなので市内向けの情報発信に留まらず、マスコミ等を活用し、広く情報発信してはどうか。

事務局：本市もマスコミ向けに周知を行うことは以前から行っている。また、地域のコミュニティ雑誌にも取り上げられたこともある。今年度は、日野市等他市も参加するので、他市でもこのイベントをアピールしてもらえると考えている。

桐谷委員：アピールを行っているのは分かった。更にインターネットなどを活用して、極端に言う世界に情報発信しても良いのではないかとも思う。できるだけ開催までに様々な形でアピールしてほしい。イベントとの趣旨と若干整合性がとれないかもしれないが、アピール方法では、ゆるキャラも活用するといいかもしれない。

事務局：ゆるキャラについては、今回のあきしま環境緑花フェスティバルに他市からゆるキャラが参加してもらえるように依頼している。イベントが盛り上がるのではないかと考えている。

会長：市制施行 60 周年記念ということもあるのでぜひ盛り上げてほしいと思う。イベントとしての目玉を作って開催するのもいいかと思う。

事務局：市制施行 60 周年記念でもあることからイベントを盛り上げるために様々な工夫を行っていききたい。

久富委員：平成 25 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰の受賞について拝島第二小学校が表彰されたことは大変良いことだと思う。こうした環境への取組は昭島市内の学校で広くいろいろ行っているのか。

事務局：昭島市内の各学校で環境への取組は基本的に行っている。今回、報告させていただいたのは、環境大臣表彰を受賞したという喜ばしい報告という意味合いは勿論であるが、拝島第二小学校とその近くにある環境コミュニケーションセンターが連携した取組が以前から大変盛んで、地元の方々をはじめとする多くの方に大変お世話になりながら、行政と市民そして子ども達の取組が一定の評価を受けたことも本市としても大変喜ばしいことと考えている。ここまで至るまでには多くの方々に御協力をいただいた。当然ここにいらっしゃる環境審議会委員の皆様にも御協力をいただいたと考えている。そうした方々への感謝という意味合いも今回の報告には含ませていただいた。そして、今後も多くの方々に御協力いただくとするが、こうした連携を継続して環境への取組を推進していきたい。

將堂委員：新環境マネジメントシステムについての説明で事業者にも何か配付すると聞いたが何を配付するのか。

事務局：昭島市環境配慮事業者ネットワークに参加している事業者で ISO14001 等の環境マネジメントシステムを導入していない事業者に新環境マネジメントシステムを紹介して使用していただきたいと考えている。また、今ではさまざまな環境マネジメントシステムがあり選択肢も多い。そういった選択肢を紹介することも重要なことと考えているので併せて行っていきたい。

岡部委員：何点か確認したい。きき水についてだが、エコプロダクツ 2013 では昭島市の水と交流のある岩泉町の水を使用し、飲み比べを行ったそうだが、学校の子どもたちにもぜひ、きき水を行わせてあげたい。昭島市と交流のある岩泉町の水を手に入れることは可能かを教えて欲しい。

次にあきしま環境緑花フェスティバルについて、このイベントのテーマになっているように緑をアピールするようだが、昭島市の緑と言えば、昭島市の木、もくせいと昭島市の花、つつじを紹介する取組をしているのか教えて欲しい。また以前、市内街路樹からとれたかりんを飴にして配付していたと思うが今どのようになっているのか。最後に新環境マネジメントシステムに関連して温室効果ガスの削減の目標値を伝えて欲しい。そして市内小学校で実施しているキッズ ISO について来年度の取組予定を伝えて欲しい。

事務局：岩泉町の水を手に入れることは可能だと思う。調整させていただき学校のきき水に利用してほしいと思う。

もくせい、つつじの周知だが、市内各所に植樹されている。また市から配付する封筒などにイラストが印刷されているので、そういった部分で自然と周知されていると思うが、もっと周知することは大事だと感じたので検討させてもらいたい。

かりんについては、かりんの実を現在は市民の希望者に配付している。以前のように工場に持ち込み飴にすることは現在行っていない。

温室効果ガスの削減目標は、環境基本計画で市域の温室効果ガス削減目標を平成 33 年度までに平成 2 年度比 15%削減とし、市の事務事業から排出される温室効果ガス削減目標については地球温暖化対策実行計画で平成 33 年度に平成 16 年度比 15%削減という目標を立てている。温室効果ガスの話になるが、排出量が多いのが事務所などを含めた民生業務部門、一般的な家庭を含めた民生家庭部門と分析している。今後の削減に力を入れていくべき対象がこの 2 つになるかと思う。

キッズ ISO は来年度 5 校で実施予定である。

久富委員：温室効果ガスの削減に関連して、自分の住む集合住宅で試験的に水銀灯から LED に一部照明器具を変更して、電力使用を大きく削減できた。設備投資をすることでエネルギー使用量を削減でき、同時に温室効果ガス削減にもつながると思うので、予算の関係もあると思うが設備投資についても検討してみてもどうか。

会長：集合住宅はどのようにとらえるのが難しいと感じた。民生家庭部門として世帯の集まりとして市が温室効果ガス削減の周知を行うのか、あるいは集合住宅の管理組合などをお願いして管理組合を事業者というような扱いで温室効果ガス削減周知を行うのかなど、考えてみると集合住宅はどのように温室効果ガス削減取組を行うのか難しいと感じた。ただ、削減主体がどこで、どんな取組を行っているかを、市が把握しておくのも重要だと思う。

事務局：様々なご意見をいただいたので、検討させていただきたい。

3 議題

(1) 昭島市の水について

桐谷委員：第 2 回環境審議会水道部を見学させてもらい、停電時に非常用発電機を稼働させて設備を動かし飲料水を確保するとの話を聞いた。こうした体制が整っていることは大変重要であり、良いことだと思った。水道部として停電時の体制についてもっと周知してもいいのではないかと感じた。また、以前仕事でリスクマネジメントについて

携わっていた経験から言わせてもらおうと、非常用発電機が稼動してから、いかに省エネで動かしていくかが重要であると考えている。限りある非常用発電機からの電力を万が一を考え、少量ずつ使用することで、より長く非常用発電機の電力も継続使用させることが出来るからだ。水道部についてもこのような考え方をもっても良いのではないかと思った。

事務局：水道部は非常用発電機と更に配水場同士のバックアップ体制も構築しているのでかなりの危機管理がなされているが、考え方としては大事なことであると思う。

桐谷委員：昭島市が壊滅的な状況に陥っても大丈夫なくらいにならないかなと思う。例えば様々なエネルギーで施設が稼動するような仕組みを作るなどである。単独の種類のエネルギー供給では東日本大震災でも問題となったが、頼りにしているエネルギーが断たれると大変なことになると思う。

事務局：複数のエネルギー供給とそれによる稼動について考えておくことが大事だと思う。

会長：昭島市は単独で水道事業を行っているとのことだが、どういう状況になると東京都から東京都の流域水道に加入させられるのか。また、節水は大事だが節水が進むと逆に水道事業の経営が大変ではないのか。

事務局：飲料水は年間の汲み上げ量が決まっている。では、どういった時に東京都の水が必要かというと地下水が枯渇した時となる。他市では、自前の地下水だけでは足りない時に東京都の水を供給してもらっている。昭島市は井戸が20本あり、その20本の井戸で水が不足し、枯渇しない限り東京都の水を入れることはない。また、昭島市の地下水は恐らく枯渇しないと現状では考えられている。

もう一点であるが、昭島市では、上水使用量が年々減っている。ただし、経営はうまくいっていると思う。合理化なども進めているからだ。最悪、収益が無くなって来ると埋設管の老朽化対策の遅れや耐震工事の遅れが懸念される。

桐谷委員：昭島の売りとして水をもっとアピールしてもいいのではないかな。東京五輪も今後行われるので聖火リレーを通すルートも戦略的に練って、水と緑をアピールできるルートを選ぶなどしても良いかもしれない。

会長：水と緑をキャッチフレーズとしている自治体は多くあるが、昭島市のように水と言えれば飲み水がまず頭に浮かぶところはないと思う。そういった特徴があるのだから、もっとアピールしても良いのではないかなと思う。

事務局：今までのお話を伺ったところ、皆さん水というと飲み水というお話が多い。これは、事務局が考えていた水のイメージとは違う感じがした。もっと、川、用水、湧水なども話として出るかと思ったが、意外にもあまり出ず、そういったところのギャップがあった。一度、今までの審議会で審議した経過をまとめさせて次回の審議会に提出したいと思う。そして、昭島の水という議題をどのようにまとめていくかを議論いただきたい。

桐谷委員：水を教育にも入れて子どもたちに知って欲しいとも思ったのでご検討いただきたい。

將堂委員：府中の郷土の森に、水遊び場があったかと思う。昭島市にも昭島の水と遊べる場があるといいかもしれない。

会長：昭島の水を具現化、体現化して、子どもたちの教育に使用し、体験してもらうのが良いのかもしれない。

久富委員：昭島市の下水は分流方式で下水は下水、雨水は雨水と分別できているのは評価できる。こういった点もアピールしても良いのではないかな。

丹野委員：多摩地域は分流方式が多い。良い点と悪い点があり、悪い点として河川事故が多いこと。良い点は雨水が大量に発生した時に冠水が少ないこと。良い点、悪い点を良く考慮した上でアピールして欲しい。分流方式とはどういう仕組みかをまずアピールした方が良いのではないかと。

事務局：水を視点にした、取組をとらえていくことも今後は必要かと思う。水に関連し出来ることをまとめても良いのではないかと感じた。

金井委員：以前、所属する団体で昭島市をどうしたらアピールできるかというディスカッションを行った。実際にディスカッションしたことを行う訳ではなく、仮想のディスカッションだが、「昭島わさびプロジェクト」を立ち上げることが良いのではないかと考えた。フェイスブックを使用した双方向で市民参加型の取組だ。そういったことも行えるのではないかと。

水以外の切り口で昭島市に興味を持ってもらい、結果的に水に関連しているというやり方もあるのではないかと。

副会長：水のアピールも大事だが、恵まれた水をどのように使うかということも考えなくてはならないと思う。

会長：確かに、貴重な資源であることから、使い方を考えることも重要だ。

長瀬委員：水の力を再認識していくことが重要ではないかと思う。我々の生活や人生には水は不可欠であり、その力は非常に強い。

岡部委員：昭島市の水の規定をどのようにされているのか。飲料水について多く話が出たが、昭島市を流れる多摩川をどのように扱うのか。

会長：どのように扱うのかを検討していければ良いかと思う。

事務局：多摩川も重要視している。奥多摩町に設置した、奥多摩・昭島市民の森もあるように奥多摩の森が多摩川の水を育んでいると考えている。

会長：水について議論がこれまでなされたが、先に事務局からも提案があったが、今までの経過をまとめて次回の審議会に提示していただきたい。その上で今後の方向性を考えていきたいと思う。

以上